

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	(有)ハマダコーポレーショングループホームおもひで懐1階	評価実施年月日	平成20年6月1日～平成20年6月30日
評価実施構成員氏名	1、濱田 明彦 2、佐藤 真 3、吉澤 寿美 4、小田桐 祐子 5、木戸 佐知子 6、工藤 比呂子 7、亀谷 英希 8、高島 利紀 9、瀧口 朝海		
記録者氏名	佐藤 真	記録年月日	平成20年6月30日

北 海 道

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「思い出を一緒につくること」を盛り込んだ事業所独自の理念をつくりあげ、日々実践に取り組んでいる。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時や、月に1度の全体会議開催時に理念を確認し、その実践に取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレットをホーム玄関の見やすい場所に掲示したり、広報誌やパンフレットを玄関に置くなどや、入居者やご家族、来訪者にわかりやすく説明するなどしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	民家のような玄関で表札も木に手書きで書いてあるので親しみやすく、気軽に入れる雰囲気がある。近隣の方が気軽に見学に来たり散歩の途中立ち寄るなどのつきあいがある。	○ 今後も随時見学や散歩の途中に立ち寄ったりできるように、近隣の方とのつきあいを大事にしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の清掃活動に参加したり、大正琴のボランティア来訪を受け入れるなど、地域との交流に努めている。	○ 今後も地域の一員として、お祭りや行事などを通して、地域の方々と交流する機会を大事にしていきたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症サポーター養成講座を開催して、認知症に悩む方々への、認知症介護の啓発をしたり、相談を受けるなどしている。	○ 今後も定期的に認知症サポーター養成講座を開催したり、他に地域の高齢者等の暮らしに役立つようなことが無いか模索していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価・外部評価の意義を理解しており、項目ごとに検討しながら全員で取り組んでいる。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、重要性を認識しながら構成員と活発な意見交換を行い、事業所の運営に反映させている。	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて市役所・保健所・地域包括支援センターに出向いて相談し、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護の研修をすでに修了しており、また実際に対象者がおり、任意後見人制度の申請の手助けをして、利用に至った実例もある。	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を立ち上げ、委員に研修受講してもらい、管理者や委員を中心としてケアの状況により指導するなどして虐待防止に役立てている。	
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に余裕のある時間で行い、サービス内容など詳しく説明し、その都度疑問点などないか確認しており、十分説明を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に受付窓口、責任者を電話番号とともに、また公的な第三者機関機関の相談窓口も明示し、相談・苦情を気軽に言ってもらえるように日頃か話し、玄関にはご意見箱を設置している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所便りを発行し、利用者の暮らしぶり等について家族に報告している。また金銭管理については金銭管理委員会を設置し、ご家族へは出納帳のコピーと伝票を毎月送付し、家族の来訪時に再度確認してもらっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族の来訪時に積極的に声かけをし、家族が意見・要望等を表出できるよう努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やカンファレンス以外でも普段から運営に関しての意見や提案を話しやすい雰囲気を作り、管理者が意見をまとめて運営者に定期的に話す機会を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者を別とし、早出・遅出・日勤・夜勤を各1名ずつ確保し、様々な状況に管理者が対応できるようにしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	福利厚生に関して職員の要望に応え、離職を最小限に防ぐよう努め、利用者との馴染みの関係を大切にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は人材育成にも熱心に取り組んでおり、南北海道連絡協議会や保健所主催の研修会に参加する機会を設け、職員は積極的に受講している。また、タクティールケアや芸術療法などの研修に参加するなど、更なる質の向上に取り組んでいる。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道連絡協議会のブロック会議に参加した際に同業者と交流し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間の確保や、希望休日をできる限り取れるように配慮したり、福利厚生部分やストレスに対する相談を随時受け付けるようにしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の経験や力量、勤務状況などを勘案しながら、研修の機会を設けたり、普段から介護に対する思いなどを気兼ねなく話し合える場面を設定し、モチベーションを維持している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居予約段階から、管理者が訪問して事前に、ご本人様とよく話し合う機会を設けて信頼関係を築くようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居予約段階から、管理者が定期的に電話や訪問して事前に、ご家族とよく話し合う機会を設けている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者と運営者、ケアマネージャーが連携し、できる限り運営者もご本人・家族に事前に訪問し状況確認した、他サービス事業所や医療機関に問い合わせながら、最適なサービスが受けられるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者本人・家族に事業所を見学してもらったり、話し合いを重ね、本人が納得してからの入居となるよう工夫している。また、入居後も利用者が事業所の雰囲気に馴染めるよう配慮している。	○	サービス利用する前に体験入居を促すなどをしていないので、今後は必ず行っていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と食事・買い物・家事等と一緒にすることにより、互いに支え合う関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時などに、ご本の様子や状況を伝え、時にはご本人を安心させてもらえるように声かけてもらうなどして、職員と連携しながらご本人を支えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の産まれたその日に誕生会を開き、ご家族を招待している。また日常の面会や2ヶ月に1回の家族の集いでも日頃の暮らしなどから話題提供して、より良い関係を築いている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の知人の面会も受け入れたり、なじみの理美容室や商店、病院などへ行くなどの支援も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い人同士が過ごせる配慮をしたり、良い関係が作れるように配慮している。トラブル発生時は早急に原因の把握、仲裁に入るなどして、お互いが不快な思いを残さないように対応している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了後に継続的な関わりを必要としている利用者、家族がいないため、現状ではしていない。	○	必要がある家族・利用者がいれば、関係維持していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の人格を尊重し、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。困難な場合は生活歴等をもとにその人らしい生活となるよう支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族に生活歴・ライフストーリー等を聞き取りして、その後も定期的に連絡を取り合い、アセスメントを行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人一人の人格を尊重し、本人ができる能力を伸ばすように働きかけている、自分でできる所は自分でやっていただき、できない所や補助が必要な所のみ援助し、現状の能力を総合的に判断している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見を取り入れ、ユニット会議で職員間で協議し利用者が安心して暮らせるような介護計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度の見直しを行うとともに、利用者や家族の状況変化に応じてそのつど話し合い、きめ細かに新たな介護計画を作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録に日常の暮らしの様子や、本人の言葉、排泄状況などケアプランに基づく記録には青で線を引き、介護計画に実践や見直しに活かしている。特筆すべき事項などは連絡ノートやスタッフノートなどで情報共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が宿泊できるような体制を整えており、法事などの外出介助や遠方や健康状態で付き添いできない家族に代わって、病院受診するなど、本人や家族の状況に応じて柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事などで文化・教育機関などに行く際は必ず事前に連絡して、入居者の意向や必要性に応じて協力を得ている。	○	警察や消防などの機関については、防災訓練の時のみの協力依頼なので、普段でも入居者の意向があれば、協力を得ていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人やご家族の意向により訪問リハビリや病院受診を積極的に行うなど、他サービスを活用できるように支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居者の意向や必要性での権利擁護や総合的・長期的ケアマネジメント等について、必要に応じて地域包括支援センターへ情報提供を依頼するなどの協力を得る協働は行っており、任意後見制度を活用した事例がある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関での受診支援を行っている。また、隔週で医師の受診の機会を設けたり、電話で利用者の健康状態等について相談できる体制を築いており、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>近隣にある精神科病院の医師へ受診の際に手紙や電話、あるいは一緒に付き添い、状態を伝えたりして、情報提供や相談をするなどして対応している。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>医療連携しているかかりつけ医の看護師が隔週（医師訪問とは別の週）に訪問して、状態観察や医療相談にのってもらっている。また職員にも、1名准看護師の資格を持っている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>医療機関に入院する際は、必ず職員付き添い、情報提供や今後の方針などを医師や他職員と相談する。また定期的に医療機関と連絡を取り合うばかりでなく、お見舞いに行つて実際の様子を見るなどしている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化・終末期に向けての方針について、利用者本人・家族の意向を確認し、かかりつけ医にも情報を提供し、方針を共有している。</p>	<p>○</p> <p>今後は家族の集いなどを通じて、重度化・終末期に向けての本人・ご家族の意向を再度明確に確認し、個別に記録に残す予定である。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>常時の医療行為の必要性やターミナルのリスクなどについて、事業者で困難と考えられる事例について、かかりつけ医はもちろん、家族・本人、他サービス事業者や市職員などにも相談しながら、今後の変化に備えて準備している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>ダメージを少しでも減らすために、事前情報からできるだけ馴れ親しんだ環境に近い環境を大事にしたり、家族に協力をして頂いたり、医療機関と相談しながら支援する体制がある。</p>
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>職員は利用者のプライバシーに配慮しながら穏やかに対応している。また、個人情報の取り扱いにも十分に配慮し、適切に対応している。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>一人一人の能力に応じて、常に複数の選択肢を用意したり選べるように支援している。また待つ姿勢を大切にしている。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>職員は利用者一人ひとりの体調や個性等を大切に、その人らしい生活となるよう支援している。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>入居者の希望や生活背景から、服装やおしゃれを支援する。本人、訴えられない方はご家族に確認し自分の好む理美容店に行けるように支援している。身体状況で行けない方もホームに業者を呼んで理美容している。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>利用者の力量に応じて食事の準備や後片付け等を職員と一緒にやっている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	今までの生活習慣を大切にしているが現在喫煙や毎晩の晩酌を希望される方がいない。嗜好は事前に確認し一覧にして把握しており、その都度何か食べたいものなどを確認しながらおやつ、飲み物も含め献立を決定している。	○	イベントや夕涼みなど何かあると飲酒される方が多く気軽に飲酒を楽しめるような機会を設けている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックや排便チェックがされており、排泄の自立に向けて支援している。又失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が可能であり、利用者の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝付けない場合に添い寝や暖かい飲み物を飲みながらおしゃべりしたり、個々の睡眠パターンに合わせて就寝時間を配慮する。また疲労や緊張の度合いに応じてこまめに休息が取れるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除・洗濯物たたみ・編み物・ダンスなど、利用者の生活歴や好み・趣味等に応じた役割や楽しみごとの支援を行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には財布を持ってもらっている。困難な方でも職員が付き添い買い物をして頂いている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物・ドライブなど、一人ひとりの希望に応じた外出支援を行っている。また、夏季にはソフトクリームを食べに外出するなど、楽しんで戸外に出掛けられるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者と相談しながら、季節の行事を企画実施している。また可能な限り、個別や他利用者、家族とともに出かけられる機会を作っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに十分配慮しながら、電話や手紙等の通信を支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人に遠慮なく訪問してもらって、一緒にお茶を飲んでもらったり、居室などでゆっくり話せる時間を作ったりしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止委員会を立ち上げ、管理者や委員を中心として、資料を配布したり掲示するなどしたり、転倒などのリスクに対して、身体拘束をしない介護上の工夫を話合っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上の理由から施錠しているが、日中は鍵をかけておらず、利用者が外出しそうな時は職員がさりげなく声かけをしたり付き添うなど工夫し、利用者の安全面に配慮しながら自由に入出入りできるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	申し送りは勿論、普段でも職員間で声をかけあい、入居者の状況、所在や様子を把握している。報告・連絡・相談は昼夜問わず行われている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品、刃物やライターや薬などは、事務所に保管している。洗剤類等についても保管場所の取り決めがあり、実行している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	けが、転倒等は、事故報告書やヒヤリハット報告書で全ての職員が内容を把握し、ヒヤリハット委員会を立ち上げ、管理者や委員を中心として対応策を話し合い対策を立て、事故防止に前向きに取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変や事故発生時には、緊急対応のマニュアルを見えやすい場所に掲示しており、全スタッフが周知している。	○	救急蘇生研修をできるだけ早期に全員修了できるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得ながら年に2回避難訓練を実施し、利用者も参加している。また災害対策委員会を立ち上げ、災害時に備えている。	○	今後、緊急時に地域からも協力が得られるようにしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	契約時や来訪時に、その都度入居者一人一人の状況やそれに伴うリスクについて、こまめに説明して了解を得ている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に顔色や様子に注意し、変化が見られる時にはバイタルチェックを行い、その都度管理者に報告し他スタッフにも伝え、変化や対応を個別記録に記入している。また管理者は全体を把握するため、別に体調チェックを記録している。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは処方された薬の内容が記載された用紙を確認し、入居者が服用している薬の種類や副作用を把握し、指示通り服薬できるよう支援している。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材やの提供や適度な運動、マッサージ等状態に応じて取り組んでいる。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を、スタッフ全員が理解し、毎食後歯磨き・義歯洗浄を促し、困難な方は状況に合わせて支援するように努めている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の嗜好を考慮した献立を作成し、一人ひとりの健康状態に応じて食事量・水分量を確保できるよう支援している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防委員会を立ち上げ、インフルエンザの予防接種を、出来る限り全員接種したり、感染症マニュアルを作成し特に季節的な感染症に対して掲示板にマニュアルなどを掲示するなどして、感染予防に注意している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	家庭的な雰囲気を壊すことなく、入居者が寝ている時などに、まな板などの調理器具やふきんなどの消毒を行う。また食材は新鮮なものを使用し、手指の洗浄をこまめにするなど食中毒の無いように清潔や衛生保持に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	民家のような玄関にしてあるので、皆さんが、気軽に入れる雰囲気がある。表札も木に手書きで書いてあるので、親しみやすさがある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はゆったりとしており、明るく清潔感が漂っている。また、観葉植物や花が飾られ、火鉢が置かれるなど、家庭的な雰囲気を有し利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間からすぐに出れるウッドデッキがあり、木のベンチにすわって、入居者同士で自由に話ができる場所がある。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた馴染みの家具・仏壇・写真等が持ち込まれており、本人が安心して過ごせるような空間となっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入替えは積極的に行っている。寒気でも暖房に頼りすぎず温度調節をこまめに行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、階段、トイレ、浴槽には手すりが設置されている。浴槽内には滑り止めマットを引き、浴槽移乗のための補助具なども設置し安全に努めている。台所はオープンキッチンになっているので、自然に台所に来て、作業ができる。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者が自分の部屋とわかるように入り口に表札やのれんなどの目印をつけたり、使用しているものの位置を変えないなど、家庭的な雰囲気を壊さずに混乱を防止できるように対応している。	
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキや外には物干しがあり、花を植えたりできる場所がある。また、外の水道を利用して、水撒きやたらいで洗濯もできる。	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

民家のような家庭的な雰囲気壊さず、手作りの料理と温泉でゆっくりできるように取り組んでいる。
 また外出の機会を多く持つ。計画的・突発的に出かけて、季節を味わうことができる。
 面会時や毎月のお知らせ、広報誌などでご家族に様子を逐一報告している。
 研修会などに積極的に参加したり、各種委員会を設置することでケアの維持向上に力をいれている。